



第91号

発行日:令和6年3月15日(金)

発行:山口県立下関西高等学校

～普通科の総合的な探究の時間の活動や探究科の活動、SSH事業の取組など、下関西高の特色ある学びをお知らせします～

第66回山口県読書ノートコンクールで、「学校優秀賞」を受賞!

普通科
探究科

山口県学校図書館協議会や山口県図書館協会が主催する第66回山口県読書ノートコンクールの審査会が、1月24日(水)に西京高等学校で開催され、本校が**学校優秀賞(1位)**に選ばれました。本校では、1年次生全員が読書ノートに取り組んでおり、1年間で本を10冊読むことを目標に読書活動を行っています。各学校から10人の読書ノートを出品できる本コンクールに、普通科の生徒3人と探究科の生徒7人が、学校代表として出品しました。審査の結果、探究科の生徒1人が**教育長賞(1位)**、探究科の生徒2人が**最優秀賞(2位相当)**、普通科の生徒2人と探究科の生徒3人が**優秀賞(4位相当)**を受賞するとともに、そのほかの生徒も優良賞や入選をいただくことができました。こうした成果が学校優秀賞の受賞につながりました。審査を務めた先生方が述べられた講評には、「読書を自覚的に行っている生徒は、成長の著しさが見て取れた」や「思ったままの素直なものから、成熟したものまで幅広い感想が読めて、自分も改めて読書のよさに気付けた」などがありました。



第66回山口県読書ノートコンクールで入賞した本校の生徒

読書は、自分がこれからどこへ向かって進んでいくのかなど、**生き方を考えるきっかけ**になったり、**様々な学習をつなぐ手がかり**になったりすることもあります。高校生活では、多様な活動に挑戦するため、読書の時間を十分とることが難しいかもしれませんが、本と向き合う大切な機会を主体的につくることができるよう、普段から心がけましょう。

普通科の1・2年次生が、SDGs探究AWARDS2023に応募しました。

普通科

一般社団法人未来教育推進機構(UMEDAI)が主催する、**SDGs探究AWARDS2023**に普通科1年次の1班と2年次の11班が応募しました。本コンクールは、国際連合が2030年までに達成を目指しているSDGsの17のゴールについて、未来を担う世代の人々が、**持続可能な社会を実現**するため、世界の問題に気付き、発見した問題を「自分ごと」としてとらえ、解決に向けた行動を促すことを目的としています。このたびのコンクールには、全国から754作品が出品されており、おおよそ2,600人の中高生や大学生が参加していました。

SDGs探究AWARDS2023に出品した研究班と研究テーマ

クラス	研究班	研究テーマ
1年4組	B班	世界の発電の現状と日本でできること
2年1組	A班	西高サステナブル! ～これが私の天下第一歩～
	G班	ZERO HUNGER ～歴史から考える飢餓対策～
2年3組	H班	SNSと情報戦争
2年4組	A班	津波未来予想図
	B班	もみぢの気持ち
	C班	人間 VS AI
	D班	香りは万能memory
	E班	人は酒で生きていけるのか?
	G班	「ナメック星人」になれるのか
	H班	Re. Chalk
I班	世界の貧困問題	

本校から応募した12班は、いずれも**総合的な探究の時間**(本校では、「NCA」と呼んでいます。)で取り組んだ**課題研究の成果をまとめたポスター**を出品しましたが、



SDGs探究AWARDS2023に出品した本校の生徒

残念ながら、入賞(21位以内)には届きませんでした。課題研究は、より優れた研究成果を残すことも大切ですが、他には

オリジナルな答えを自ら導き出したことや、課題解決の成果を多くの人に伝えようと行動したことにも意義があります。このたび出品しなかった普通科のみなさんも、普段からこうした活動に、自ら進んで挑戦してください。

普通科

は普通科を、

探究科

は探究科を対象としたプログラムです。

探究科2年次の「化学1班」と「化学2班」が、第26回化学工学会学生発表会で「奨励賞」を受賞!

探究科

探究科の2年次の化学1班と化学2班が、3月2日(土)にオンラインで開催された第26回化学工学会学生発表会に参加しました。公益社団法人化学工学会が主催する本発表会は、参加した高校生や高専生、大学生が研究成果を発表し、研究者と闊達な討論を行うことにより、研究者や技術者として堅実に成長することを目的としています。このたびは高校生(高等専門学校の1~3年生を含む)による129件の発表と、大学生等による202件の発表があり、参加者数はおよそ1,350人でした。

エネルギーのセッションで発表した化学1班は、シリカゲルB型に水を加えたとき発熱する現象に着目し、加える溶媒の種類を変えて繰り返し実験した結果を報告しました。これにより水に代えてエタノールを加えると、発熱量が大きくなることに気付くことができました。この原因を考察するとともに、この現象を生かしたホットアイマスクを作製したことについて発表することができました。

材料・界面、熱工学のセッションで発表した化学2班は、ごみを処理するときに加える灯油を節減するため、灯油の代わりにプラスチックごみを加えてごみを焼却する方法について研究しました。実験では、ポリエチレンやポリ塩化ビニル、ポリスチレン、ポリエチレンテレフタラートを、生徒自ら作製した

第26回化学工学会学生発表会で発表した研究班と研究テーマ等

研究班	研究テーマ	結果
化学1	シリカゲルB型の溶媒の吸着による温度上昇	奨励賞
化学2	プラスチックを有効活用するために	奨励賞



シリカゲルB型に消毒液を加えることにより、アイマスクとして活用できることを報告した化学1班の生徒

燃焼炉で燃焼させ、測定した発熱量から、ごみを燃焼させる燃料として最も適したプラスチックを選び出すことができました。

このたびはスライドを使って、7分間の口頭発表を行い、学会の会員のみなさんと行った質疑応答をおして、新たなアドバイスをいただくことができました。なお、審査の結果、化学1班、化学2班とも奨励賞をいただくことができました。



プラスチックの燃焼熱を測定する実験装置を紹介し、実験方法を説明した化学2班の生徒

普通科の1年次生を対象とした生物基礎の授業において、ユニットカリキュラムを実施しました。

普通科

1年1組・2組・4組の生物基礎の授業において、2月20日(火)に地理歴史科の教員とのユニットカリキュラムを実施しました。生物基礎の授業では、世界のバイオームについて学んでいます。

バイオームとは、ある地域の生物(植生)とそこに生息する動物などを含めたすべての生物の集まりで、地理総合の授業で学んだ熱帯雨林やツンドラなどの気候区分に関係しているといわれています。そこで



バイオームと気候区分の関係について説明を聞く生徒



寒帯のバイオームについて考察する生徒

地理歴史科の教員が、地理総合の授業で学んだ大気大循環について振り返りを行ったのち、赤道低圧帯、中緯度高圧帯、高緯度低圧帯の間に生じる貿易風や偏西風により、暖流がもつ熱が大陸に運ばれてくることや、高山など地形の特徴や地球の自転により大陸の気候に違いが表れることを学びました。さらに、地図に示されたバイオームと地理総合で学んだ気候区分を比較しながら、バイオームについて深く考えることができました。

普通科

は普通科を、

探究科

は探究科を対象としたプログラムです。